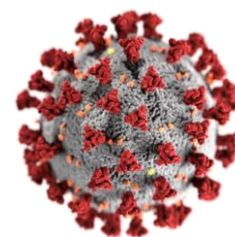


院長の独り言...Vol.2

コロナに想う



新型コロナウイルスの蔓延がとどまるところを知らない様相である。新型コロナによって世の中が大きく変貌してきている。この時代に想いを寄せることを綴ってみたい。

まずは用語の確認から...

COVID-19： 新型コロナウイルス感染症という病名のことである。COrona VIrus Disease 2019のアンダーラインを施した赤字の部分を組み合わせた造語である。したがってウイルスの名前ではないことに注意する必要がある。

SARS-CoV-2： 新型コロナウイルスのことである。2002年11月に中国広東省で報告された非定型性肺炎（重症急性呼吸器症候群）の原因であるSARSウイルスの亜型であるため、この名前がついている。

このふたつの用語はしばしば混同して使われているが、医療従事者としては正確な用語の使用が望まれる。

病院としても感染を予防するための様々な対策を講じてきているが、だからといって完璧な予防策があるわけではない。社会生活を送っていれば感染のリスクは0にすることはできないのである。我々ができることは感染のリスクを可能な限り低減するための努力を絶やさないことである。新型コロナウイルス感染症の収束は未だ見えてこないが、一つ一つの対策や努力の積み重ねによってウイルスに打ち勝つ日が訪れることを信じていたい。

新型コロナはどうも人々の隠されていた人格を表に浮かび上がらせることが多いようである。感染した人を差別したり、感染を助長するような行動をしている人を非難したり、特にSNSでの拡散は目に余るものがある。2020年春先に起こったマスクやトイレットペーパーの買い占めなどもそれに入るだろう。こんなにも日本人の心は荒んでしまったのか。いつの間にか優しさや思いやりの心は失われつつあるのだろうか。こんなコロナの時代だからこそ、もっと温かい心を持ち続けていなくてはいけないように思う。人間としての暖かい絆が失われないことを切に願いながら診療を続けていきたいと思っている。

2020.12.11